

第2学年 学級活動（2）学習指導案

- 1 題材 ひなんリュックに入れるものを考えよう
(ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成)

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級は、学習にじっくりと取り組む児童が多い。また、休み時間になると、外で元気に遊び、その中で自然の様子や季節の移り変わりにも関心をもって気づくことができる児童も多くいる。しかしながら、目に見えないものや、経験したことがないことについては、イメージがしづらく、どこか他人事のように感じている。また、話し合いやグループでの活動では、自分の意見ばかりを通そうとしたり、逆にトラブルになりたくないという理由から自分の意見を伝えずに相手の意見に流されてしまったりする児童がいる。

(2) 題材設定の理由

近年、徳島県では、南海トラフを震源とする大地震がいつ発生してもおかしくないと言われており、災害から自分の身を守り安全に行動することが必要である。本題材「ひなんリュックに入れるものを考えよう」では、南海トラフの大地震に備え、震災を自分事として捉えさせたい。被災した時に、自分たちができることを考えさせ、グループでの話し合いによって、それぞれの避難リュックを作っていく。その際に、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりして自分や家族にとって本当に必要なもの考える大切さを味わわせたいと考え本題材を設定した。

(3) 指導にあたって

本時では、事前の読み聞かせや震災発生後の避難経路や避難場所の写真をもとに避難リュックについての関心をもたせる。次に、イラストの中から自分や家族にとって必要なものを選択し、グループで話し合わせることで考えを深めさせたい。さらに、授業後に自分が伝えたいことを理由とともにもう一度ワークシートに整理することで、自分の考えを明確化し、自信をもって伝えることができるようにする。そして、家族と一緒に避難リュックや地震について考えることにより、自分事として捉え危機意識を高めて災害時の実践に生かせるように指導の実践に努めたい。

3 活動の流れと指導助言・評価規準

	活動内容	時間	指導上の留意点	評価規準 (めざす児童の姿)
事前の活動	避難訓練 読み聞かせ(「もっと上へ」)	10/27(水) 2校時 10/4(木) 読書タイム	・地震が発生した時の校内の様子や、災害時の避難の様子を詳しく話し、関心をもたせる。	災害時の様子に関心を持ち、真剣に話を聞いたり、活動をしたりしている。 (主体的態度)
本時	「ひなんリュックに入れるものを考えよう」	11/16(火) 5校時(本時)	本時の活動に記載	
事後の活動	ワークシートに自分の考えを整理して記入する。 家庭で話し合っ考えたことをまとめる。	11/22(月) 3校時	・それぞれの思いを尊重し、気づいたことや新たに考えたことを称賛したり、励ましたりして実践する意欲を高めていく。	自分が選んだ理由をワークシートにまとめてお家の人に伝えたり、話し合うことで考えを深めたりしている。(思考・判断・実践)

4 本時の活動

(1) 本時のねらい

避難リュックの大切さを知り、自分や家族にとって必要なもの考えることができる。

(2) 展開

時間	児童の活動	指導上の留意点	めざす児童の姿と評価方法
10分	避難リュックのよさを知り、本時のめあてをつかむ。(つかむ)	<ul style="list-style-type: none"> 震災発生後の避難経路や避難場所の写真を見せ、学習への意欲を持たせる。 避難時に使用するリュックのよさについて気づかせる。 	
ひなんリュックに入れるものを考えよう。			
10分	自分や家族にとって必要なもの考え、ワークシートに記入する。(さぐる)	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ理由も考えさせ、発表できるように声をかける。 	
20分	グループで話し合い、意見をまとめて発表する。(見つける)	<ul style="list-style-type: none"> 友達のよいと思った考えを伝えるよう指導する。 考えをまとめることが難しいグループには、教師が間に入り、個々の思いを聞き入れ、まとめやすくしていく。 	<p>◎自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりして意見をまとめることができる。</p> <p>(思考・判断・実践) 〈発言・反応〉</p>
5分	本時をふり振り返り、自分の避難リュックに入れるものを決める。(決める)	<ul style="list-style-type: none"> グループで考えたことを参考にしながら決めさせる。 	<p>◎災害時に自分や家族に必要なものを選んで選ぶことができる。</p> <p>(知識・理解) 〈ワークシート〉</p>

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	<ul style="list-style-type: none"> 自分に必要なものを選んで選び、グループの友達に自分の考えを伝えたり、友達のよい考えを取り入れたりしながら避難リュックを作ることができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	<ul style="list-style-type: none"> 必要なものを想像することが難しい児童には、避難場所や避難経路の様子を具体的に伝え、想像しやすくする。 自分の考えに自信の持てない児童には、自分の思いを教師に伝え、確認することで発表につなげる。